

# 虹の架け橋法案

## 来世側の拒否により、承認されず

現世—来世境界河川に一方通行の橋梁を建設することに関する法律（案）、通称：虹の架け橋建設法（案）が来世側議会にて全会一致により承認されず、条約は締結・批准に至らない見通しとなった。その経緯の要点を以下に記載する。まずは来世の情報から。

【来世国会体】来世極楽院（来世上院）、来世地獄院、餓鬼院、畜生院（3院併せて来世下院）にて構成され、条約批准には、上下両院各々2／3以上の可決が必要となる。

【来世側の情報源】来世放送協会（RHK）、極楽日報、TVHeaven、来世経済新報、閻魔大王新聞、三途四季報、地獄耳ラヂオ、来世共同通信が主な情報提供源である。

【来世側の主張】地獄耳通信社（現世側）の大物フィクサーA氏からの情報。現世—来世間唯一の接点である冥途喫茶にて、A氏と来世側B氏（所属は明らかにできない）の般若湯がたっぷり浸み込んだ情報交換の内容メモを、両者合意の上公表するものとする。

①現世側の恣意的な渡渉・通過者増に対応しなければならない同義的責任は来世側には全くない。現世側は全く反省していないし、その根本原因を作った者達は、全て彼らの望むところと反対側に流れて逝った。（救済されなかった）

②渡渉・通過候補者に、真に渡渉・通過を許可するに値する評価基準の資格（徳・格・性等）は持ち得ていない。極限られた者のみが持ち合わせる。その限られた者のみが、その望む処へ辿り着く。しきい値（ボーダーライン）は絶対下げない。むしろ、往生レベルや当所の絶対価値向上、および宇宙安寧を目指すため、それを上げたい。（来世上院）

③渡渉・通過者増の後、渡渉・通過者減が決定している。現世に大量に新生者を送り込む計画は、今更何をかいわんやである。そのバラツキをもたらした原因は、来世側では明確に結論が出ている。輪廻の循環をかき乱したのは現世側である。その根本原因も明らか。

④下院側の受け入れ枠は既に限界（飽和状態）である。一時的で急激な渡渉・通過者増は対象者に更なる耐え難い苦難・苦痛を与える場を提供することに繋がるのは明らかである。

⑤橋梁建設は、現世側のみでの利得に他ならない。逆に来世側にとっては、短期・長期的利益に反するし、建設に伴う短期・長期的両方の逸失利益は計り知れない。

⑥強制的に候補者を川に投棄することは、絶対許されない。投棄者と補助した者、ならびに投棄を教唆した者の行く末は既に決まっている。その上、被投棄者には投棄関係者・親族の行く末を末代まで制御する権利が与えられる。来世側はそれを補助する義務がある。

【実況】3回にわたる交渉が決裂。3回目にも来世側の顔色が変わったらしい。「仏の顔も三度まで」の模様。現世側の取り分の多さ、来世側はその少なさにあきれ、その交渉の執拗さに「釈迦に説法」と認識されたらしい。現世側はその煩惱が災いした。